

にらめっこ

発行責任者 廣瀬邦治 印西市木下東4-6-13
 TEL/FAX 0476-42-5034 Eメール k_hirose839@ybb.ne.jp
 印西・九条の会ホームページ : <http://inza9jyoukai.webnode.jp/>



7. 23 印西・九条の会 第12回全体集会 12名の新会員が参加 活発な意見交換

印西・九条の会は、7月23日、第12回全体集会を開催し、12名の新会員を迎えることができました。世話人会より、この間の、戦争法の廃止をめざす取り組みが報告され、続いて、3名の会員の方々（東京基督教大学の山口陽一氏、沖縄新基地建設反対共同センターの早坂義郎氏、民進党の長岡誠治氏）より活動報告がありました。

これらの報告を受け、①参議院選挙の結果について ②なぜ自民に投票する人が多いのか ③野党と野党共闘について ④マスコミ報道のあり方 ⑤2000万人署名の取り組み ⑥対話ができる資質の向上について ⑦人間関係を大切にしていくこと ⑧やさしく憲法を学ぶこと ⑨印西・九条の会の役割について ⑩九条の会に参加した思い などについて活発な意見交換が行われました。

戦争法の廃止をめざし、安倍改憲を許さないために

印西・九条の会は、憲法9条を守る一点で市民の声と力を集めるため、次のような取り組みを進めていきます。みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。

- *****
 ①憲法の学習； 憲法を知り考えるつどいや学習会などを、市民参加で継続的に開催していく。
- ②宣伝・対話； 宣伝と対話活動を展開し、戦争法廃止と安倍改憲許さない世論を広げていく。
- ③市民・野党の共同； 「安保法制（戦争法）の廃止をめざす印西の会」の構成団体として、市民・野党との共同を広げていく。
- ④他団体との共同； 日本国憲法を守ろうとする市内・近隣の団体との交流・連携・共同をめざす。会員相互の親睦と交流をはかる。
- ⑤会員拡大； 会員をふやし「会」を大きくしていく。
 若い世代の会員を迎えていく。
- ⑥ニュース発行； 印西・九条の会ニュース「にらめっこ」を継続的に発行し、広く普及していく。

ひとりひとりがミニコミになろう

彦坂 諦

参院選にひきつづき、都知事選でも、予想はしていたものの、最悪の候補が当選してしまいました。野党統一の効果はあがりませんでした。小池候補の危険性については、いつさい報道されませんでした。おそらく、この候補に投票したひとたちの大部分は、このひとが、戦争をおこそうとしている一味のなかでもとりわけ尖鋭で戦闘的な超タカ派であることも、日本国を核武装すべきだと主張していることも、女性や障害者差別の首魁であることも、なにひとつ知らないままであったにちがいありません。

参院選の結果沖縄で統一候補が勝利した直後に、全国各地から500名もの機動隊員を動員して市民に暴行をくわえながら、高江のヘリパット工事を強行したことについては、全体集会のさいにおはなししたとおりです。わたしたち民の意志も感情も平然と無視する政権が現にこの日本国を支配しているのです。その政権を、多くの有権者が支持しているのです。今回の知事選でも在特会の初代代表桜井誠の得票が11万を超えるというゆるしい事態が生じています。

こういった状況のもとで、アベ政権が憲法廃絶＝新憲法制定へと舵を切ったばあい、国民投票においてわたしたちの主張がかすんでしまうことは、目にみえています。わたしたちの運動を一段と高い次元にひきあげなければならないでしょう。

これまで、ことあるごとにわたしが提唱してきたみつのスローガン——自発的・自主的にことをおこなおう、創意工夫をこらして新しいやりかたをつくりだそう、めげず、くじけず、ねばりづよく——に、もうひとつ、つけくわえたいとおもいます。

たのしくやろう。あたまとからだをうごかすことをたのしもう。接したひともたのしくなるようなスタイルをあみだそう。

マスコミがもはや「大本営発表」の機関でしかなくなっていることは、残念ながら、事実です。戦時中よりもっとひどい。戦時中は権力の弾圧に屈して御用報道機関に堕したのですが、いまは、弾圧されないうちに、権力の意向を忖度し、自発的に権力にすりよっているのだから。だからこそ、わたしたちひとりひとりがミニコミにならなければならない、正確な情報の発信者でなければならぬでしょう。

みなさんの投稿をお寄せください

印西・九条の会ニュース「にらめっこ」は、平和を求める市民の、市民による、市民のためのミニコミ紙です。みなさんそれぞれ様々な思い、意見、感想をお持ちのことと思います。「にらめっこ」紙面で交流できればと思いますので、奮って投稿をお寄せ下さい。お待ちしています。

▼次号原稿締切；8月27日（火）、発行予定日：9月3日（土）

▼テーマ・形式等；自由です。

▼文字数；1200字程度（100字、200字、400字など短文投稿も歓迎）

▼媒体；メール、ファックス、紙（ご連絡くだされば受取りにうかがいます。）

▼本名はもちろん、ペンネームなどでもOKです。

▼連絡先；印西・九条の会 廣瀬邦治 ☎270-1323 印西市木下東4-6-13

TEL/FAX 0476-42-5034 携帯 090-1706-2572

メールアドレス k_hirose839@ybb.ne.jp

安保法制どうする？

将来に不安を残さない北総の会

長岡 誠治

2015年9月。国会前に多くの人が集まり安保法制反対の声を上げました。その中には学生やママが含まれており、いつもの抗議集会とは異なる様相でした。「戦争に行きたくない！」、「戦争する国で子どもを育てたくない！」、「誰も傷つけたくない！」、みな必死に訴えていました。それに対して安倍政権は国民に丁寧な説明をしてきたでしょうか？

私は今までに何度も駅前で演説を行ってきました。何人かの方からは「頑張ってくださいね」と励ましの言葉を頂きましたが、一方、何人かの方からは「お前は日本の国防をどうするつもりだ」と強い口調で非難されました。では私は是非お聞きしたい。この安保法制のどこに直接国防強化に繋がる内容があるのでしょうか？また、安倍政権が言っている新三要件のもとで集団的自衛権が必要なのは具体的にどのような場面なのでしょうか？正確に答えることができる人はいるのでしょうか？少なくとも私は理解できていません。人の命が関わる重要な問題であるのに、十分な説明がなされないまま法律が作られていくことに強い危機感を覚えます。

今年3月29日安保法制は施行され、自衛隊が海外で武力行使できるようになりました。それでもまだ遅くないと多くの市民が立ち上がり、安保法制廃止に向けての2000万人署名活動が全国で展開されました。この印西市でも心ある市民が一生懸命署名活動されました。その結果、1200万人以上の署名が集まったと聞いています。また、憲法学者や弁護士など憲法の専門家が立ち上がり、日本の立憲主義を守るために行動を起こしました。

そのような中で始まったのが今回の参議院選挙です。経済や福祉の問題とともに、立憲主義の問題や安保法制の問題が問われた重要な選挙でした。市民中心の市民連合の後押しの下、1人区の32選挙区で野党共闘が成立した画期的な選挙でした。この千葉県選挙区は3人区であり、野党共闘はしませんでしたが、勝手連が特に都市部で活発に活動していました。民進党は「2/3とらせないこと」をキャッチコピーに選挙戦を戦いました。しかし残念ながら結果は自公の大勝。

これも国民の判断であったと真摯に受け止める必要があると思います。今後、この安保法制とどのように向き合っていくべきか。今、日本は南スーダンの問題に直面しています。国連の住民保護という考え方に対して私たちはどのようなスタンスを取るのか、しっかりと議論していく必要があります。

原爆投下から71年の夏 原水爆禁止世界大会に参加して

私の勤務する港区の職場から、8月4日～6日、広島大会に参加してきました。印西からも3名の方が参加されていました。

国際会議宣言は、「核兵器廃絶は人類の生存にかかる緊急課題」「核兵器を禁止し、廃絶する条約についての実質的な議論が国連で始まった」として、今こそ圧倒的な核廃絶の世論を創り出そうと呼びかけました。

2日目に岩国基地調査行動に参加し、基地を一望にしながら説明を受けました。「米軍再編」の中で、広大な土地と海にアメリカの軍事施設がどんどん拡張・拡充されていること、岩国基地が核攻撃基地であり、核戦争の震源地であるという恐るべき現実と向き合いました。

廣瀬邦治

～「不思議なクニの憲法」上映会のご案内～

7月10日の参議院選挙では、いわゆる「改憲勢力」が参議院の3分の2を占める事態となり、いよいよ自民党改憲草案に沿った改憲の動きが活発になることが予想されます。そこで印西・九条の会では、ドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」上映会を開催することとしました。

いま一度、憲法を知り考える機会としていただければと思います。

お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

- ・日時 9月24日（土） 13：30～16：30
 - ・場所 中央駅前地域交流館 2号館3階 会議室5
 - ・参加費 1000円（小学生以下無料）
 - ・お問合せ 印西・九条の会 廣瀬邦治
電話 0476-42-5034 携帯 090-1706-2572
メールアドレス k_hirose839@ybb.ne.jp

—4月11日、日比谷図書館文化館・完成披露試写会のアンケートより—
「不思議なクニの憲法」のホームページより抜粋

- ・国民が主体的に考え行動することの大切さを感じ、そして後世につないでいかなくてはいけないと思います。憲法において大切な部分が沢山あると思いました。（50代女性）
 - ・知らなかった事柄も多く、まずその事実を確認し、受け入れることをしなければならないので、考えがまとまりませんが、主婦の方達や一般の方達も多く出演されていたので、ともて身近に捕えられ、2時間もあつという間でした。（30代女性）
 - ・普通の人が憲法をもっと考える必要がある！ 強く感じました。出来れば親子で拝見し、憲法について話し合いたいと思います。政治を考えて一票を入れる前に憲法の大しさを考える機会になってほしいと思いました。（50代男性）
 - ・素晴らしかった。孫崎さんのお話を軸に、ストンと受け入れられる編集力が凄いと思いました。若い方々の活動を多く取り上げたのも良かったです。関心がありながら、何もしていない私も「自分ごと」として何かしなくてはいけませんね。（60代女性）
 - ・2時間では入りきれない思いが伝わるあつい映画でした。夏にまにあうよう、一気に広がるよう、私も努力します。（50代女性）
 - ・何かをしなければと思っていたので、やることがみつかりました。（50代男性）

▼安倍・自公政権は多数の議席を獲得しましたが、これは大事な争点を国民に隠して得た議席です。首相は憲法を語らず選挙をやり過ごし、選挙が終わるや、態度を豹変させて改憲に着手する考えを明らかにしています。

▼次の総選挙は、市民と野党の共同の力、草の根の力をさらに発展させ、その真価を發揮すべき選挙です。国民は新しい政治を求めています。

▼市民と野党の共同が政権を脅かす脅威と見た支配勢力は、右翼メディアも総動員して、大規模な野党共闘攻撃を展開しました。野党共闘の勝利は、市民と野党の分断攻撃を打ち破つて勝ち取られたものです。

▼7月の参議院選挙は、初めて市民と野党が全国的規模で共同してたたかうという画期的な選挙になりました。全国32の一人区で野党統一候補が実現し、11選挙区で自民党に勝利しました。

▼とりわけ安倍暴走政治の矛盾が集中する東北、福島、沖縄での勝利は、TPP、原発、震災復興、沖縄新基地建設で暴走政権への痛打となりました。

編集後記